

北海道研会報

北海道道德教育研究会

第 169 号

発行所：北海道道德教育研究会

事務局：〒006-0011

札幌市手稲区富丘 1 条 6 丁目 4 番 1 号

札幌市立富丘小学校

TEL 011-683-3791 FAX 011-683-4974

発行人：荒川 芳 央

編集人：田 村 明 人

北海道・札幌市道德教育研究会 日本道德教育学会北海道支部 共催

浅見哲也氏に道德教育を学ぶ 学習会

「これからの時代の道德学習」

講師

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

浅見 哲也 氏



今年度も「浅見哲也氏に道德教育を学ぶ学習会」が 2 日間にわたって開催されました。

1 日目は、10 月 14 日（金）札幌市立宮の森中学校で、浅見哲也氏による公開授業及び授業解説が行われ、その様子を YouTube にて動画配信しました。資料名「私が働く理由」（中学道德 1 光村図書）を用いた内容項目「勤労」の授業でした。

「将来どんな職業に就きたいか？」という導入から、「なんのために働くのか？」という問いをもって授業は展開されました。興味深いことに、途中、教科書を開くことなく、「自分のため？相手のため？」「職業にこだわるか？やりがいにこだわるか？」等の葛藤場面を設定しながら授業は進みました。そして、展開後半（終末）に初めて教科書を開き、がん患者専門の美容師と靴磨きの方の職業や生き方に触れさせ、終末で渋沢栄一を紹介することで、働くことの意味について深く学ぶことができる道德学習となりました。授業によっては、終末段階で教科書を活用するということもある、という新たな可能性についても学ぶことができました。

授業後の解説については、授業づくりのポイントとして、次のようなことを教えていただきました。①この授業で考えて気付いてもらいたいことは何かを明確にすること。②発問構成の大切さ。（ア 中心的な発問は何か？ イ その前後で考えておくべきこととその発問はどうするか？）③導入・終末で何をするか。④指導方法の工夫。また、開催校の宮の森中学校の先生方から多くの質問をいただくことで、我々の疑問や困りに対してお答えをいただくことができました。



2 日目は、10 月 15 日（土）札幌国際大学で、「令和の日本型学校教育における道德科の授業実践」と題して講演が行われました。道德教育や道德科の目標や授業をつくる上で大切にすべきこと、評価の考え方などについて詳しくお話いただきました。また、「令和の日本型教育」のために大切なこととして、「学習指導要領の着実な実施」、「ICT が学校教育を支える基盤的なツール」について解説していただきました。特に、ICT については、目的に合わせた活用の方法について、実践例を紹介していただきました。明日からの道德の授業に行かせる、大変実りの多い講演会となりました。

根室・中標津大会、支部参集・オンライン・

HP 開催により、成果を確認

函館全国大会への確かな手応えに

第57回北海道道德教育研究大会根室・中標津大会

大会長 荒川 芳央

(札幌市立宮の森中学校長)



コロナ禍により急遽中止せざるを得なかった第55回根室・中標津大会から2年、それまでの研究の成果を無駄にしたいくないとの強い思いから、再度開催に向けて準備を重ね並々ならぬ努力、ご苦労をいただき、こうして第57回北海道道德教育研究会根室・中標津大会として開催することができ、万感の思いです。この間、研究自体はもちろんのこと会員相互のコミュニケーションすら困難な状況の中、組織作りから立て直し、道德教育の学びを止めないとの決意を胸に、大会運営委員長 谷村靖志様、運営事務局長 吉田 昌弘様を始め、準備・運営にあられた大会運営委員の皆様にご尽力賜りましたことに深く感謝いたします。

根室管内の会員の皆様には参集いただき、道内各地とオンラインで結び、多くの参加をいただき、大きな成果を得て盛会に終えることができました。管内のみの参集とはいえ、互いに顔を合わせて授業づくりから準備を重ね、こうして研究大会を開催できましたことは大きな喜びです。御参加いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

また、今研究大会開催に当たり、御支援・御協力をいただきました各教育関係機関及び授業担当校の中標津町立中標津東小学校古森康晴校長先生、中標津町立広陵中学校二本柳千尋校長先生をはじめ教職員、関係者の皆様、準備・運営に御尽力いただきました根室管内道德教育研究会の皆様には、あらためて心より御礼申し上げます。

本年度の根室・中標津大会については、中止から2年越しの参集開催を目標に進めてまいりました。しかしながら、感染拡大状況に歯止めの利かない状況の中、苦渋の決断により全道からの参集開催は断念し、管内参集とHP上の研究紀要公開とオンライン公開として開催する運びとなりました。参集開催に向けて準備を進める中、早めの決断をお願いし、根室支部の皆様には多大なご負担をお掛けいたしました。北海道教育委員会より助言者の皆様をお迎えし、また大会特別講演では赤堀博行氏より学ぶことができ、充実した大会とすることができたことに感謝の気持ちで一杯です。

本大会副主題「頭が働き、心が動く授業づくりを通して」をもとに、各指導演には「考え・議論する道德」を目指して様々な学習活動や教師の支援が工夫されております。また、指導者の指導観、児童観、教材観を明確にし、頭が働く指導過程と心が動く発問に焦点を当てた授業づくりは、道德授業を行う上でとても大切であると感じ、大いに学ばせていただきました。

課題別分科会では、5分科会であわせて10の提言がありました。この度の貴重な提言の数々、それについて御助言いただきましたことを来年度の全小道・全中道研究大会函館大会へと積み上げて参りたいと思います。

大会特別講演では、帝京大学教育学部教授 赤堀博行先生にお越しいただき、『道德教育マネジメントー道德科の特質を生かした指導と評価ー』の演題で御講演いただきました。道德科としての実践を積み重ねるうえで、今私たちが課題として強く感じている指導の工夫や評価について多くの示唆をいただくと同時に、道德科を要として道德教育を進めていくことの重要性を再認識させていただきました。誠にありがとうございました。

このように根室・中標津大会は、コロナ禍という困難を乗り越え、大変実り多い研究大会となりました。この成果を来年度の全小道・全中道研究大会 全国函館大会に向け、北海道の力を結集させ、更に実り多き研究大会となるよう進めてまいりたいと思います。まだまだ困難な状況は続きますが、今後も全道各支部の会員の皆様の御理解と御支援をどうぞよろしくお願いいたします。

第 57 回北海道道德教育研究大会

根室・中標津大会を終えて



第 57 回北海道道德教育研究大会根室・中標津大会
大会運営委員長 谷村靖志
(根室市立柏陵中学校長)

およそ 60 年にわたる北海道道德教育研究大会の歴史において、脈々と受け継がれてきた使命と道德教育に対する熱い思い、そして、ここ根室でも道德教育に対する情熱を激しく燃え上がらせたいとの強い決意を持って根室管内の総力をあげて第 57 回大会を開催致しました。

公開授業は根室管内の皆様は参集、管外の皆様にはオンライン公開とするハイブリット開催とさせていただきます。また、課題別分科会提言要旨とご講評は北海道研ホームページに掲載させていただきます、大変素晴らしい実践のご提言と貴重なご示唆を頂戴しました。日々実践を重ねる多くの教員の皆様には有用性のあるものであり、ぜひご活用下さい。

赤堀博幸様には『道德教育マネジメント～道德科の特質を生かした指導と評価』と題し、道德教育における道德科の位置づけ、別葉の重要性、評価の意味合い、自我関与についてなど具体的に分かりやすくご教示いただきました。

本研究大会の運営にご尽力いただきました皆様、全道各地よりご参加いただきました皆様に心より感謝申し上げます。全国大会を兼ねている次期函館大会は、道德教育に対する熱い思いをお持ちの全国各地の皆様が一堂に会し、実り多き大会になりますことをご祈念申し上げます。

第 57 回北海道道德教育研究大会

根室・中標津大会を終えて ～授業者より～

標津町立標津小学校 中西梢子

今回授業を行うにあたり、研究テーマである「主体的に学び合う児童」「頭が働く発問」「心が動く発問」について考える中で、どれだけ、児童が自分事として考えられる発問であるかを改めて考えながら授業づくりを行いました。

実際の授業では、自分の生活をふり振り返りながらよりよくしようと考える児童の姿がありました。また、たくさんの方にご助言をいただき、学校の教育活動全体を通して道德について学習すること、意識を高めていくこと大切を改めて感じることができました。貴重な場をいただきましたことに感謝申し上げます。この経験を日々の授業づくりに生かしていきたいと思えます。



別海町立中春別小学校 丸山結梨香

今回の授業では、資料『手品師』をもとに、「誠実とは何か」について子どもたちと一緒に考えました。この授業を行うにあたって、多くの先生たちにお力を貸していただきました。本当にありがとうございました。

様々な視点で登場人物の選択を考えたり、子どもたちの発言に対して問い返しをしたりすることで、「頭が働き、心が動く」授業を意識しました。今回の授業を通し、多くの人に授業を見ていただいたことで、道德の授業において何を明確に、何を大事にすべきかを再確認できた、非常に学びの多い機会となりました。これからも、子どもたちの頭が働き、心が動く授業づくりを意識していきたいと思えます。



別海町立中春別中学校 鹿又康明

初めにこの道徳研のお話を頂いたのは一年以上前のことになります。私は自分の道徳の授業になかなか自信が持てず、このお話に正直戸惑っておりました。しかし、今回の機会を通じて自分の成長に繋がるのであればと思い、お引き受けさせていただきました。

今回の研究大会を通じ、多くの方々からご助言をいただくことができ、道徳授業における見方や考え方を広げることができたと感じております。改めて、授業を参観して下さった皆様、指導案作成において最後まで支援して下さった研究会の方々にお礼申し上げます。



中標津町立中標津東小学校 塩沢祐菜

「子どもたちがのびのびと考え、頭が働く授業がしたい」「一人一人が今の自分と向き合い、これからの自分がよりよく生きるためのきっかけとなるような心が動く授業がしたい」という想いをもち、授業をさせて頂きました。子どもたちと一緒によく考え、よく話し、共に授業を創ることができたのは、私にとって大きな経験となりました。これからも子どもたちと向き合いながら、道徳の授業を通して一緒によりよい生き方を考えていきたいです。



中標津町立中標津東小学校 佐藤雅大

事後研修を通して、児童の実態を踏まえた心の動きを予想することの大切さを改めて実感しました。事前のアンケート分析などの準備はしていましたが、普段の学校生活での関わりから見えてくる児童の様子や学級全体の課題にも目を向けるべきでした。それらを基に補助発問や展開後段の具体的な生活場面を設定することで、子どもたちはより自分事として道徳的価値を深めることができたのではないかと考えます。



中標津町立中標津東小学校 千葉佑規

私は授業づくりを通して、改めて道徳教育に向き合うことができました。以前の私は、道徳の難しさを感じていました。多くの先生方からご助言を頂き、学習指導案を何度も見直す中で、内容項目について自分の指導観を確かなものにした、学級の児童を思い浮かべながら発問を考えたりすることができたのは、全道大会での公開授業という貴重な機会を頂いたからだと思います。今回の学びを、これからの授業実践につなげていきたいと思います。



中標津町立広陵中学校 大槻 翔士

はじめに、根道研の先生方をはじめ、管理職、同僚の先生方など、指導案検討から授業当日まで、多くの方にお力添えを頂戴しましたことを、この場をお借りして感謝申し上げます。

今年度、新たに入学した1年生を前に、研究主題のもと、“本音を伝え合う授業”の構築を目指して、私なりに実践を積み重ねて参りました。研究大会当日の授業、研究協議を経て、終末場面における価値の深め方に自身の課題があることを実感し、大変貴重な学びを得ることができました。先生方から頂いたご指導、ご助言を自身の更なる成長に繋げ、これからも目の前にいる生徒たちのために邁進して参ります。



根室・中標津大会記念講演会

演題：「道徳教育マネジメント

—道徳科の特性を生かした指導」

帝京大学教育学部教授 赤堀 博行 氏



帝京大学教育学部教授 赤堀博行氏により「道徳教育マネジメント—道徳科の特質を生かした指導」と題して講演が行われました。

講演では、教科化された意図や、教育活動全体を通じて行う道徳教育の進め方について、学校としてどうあるべきか、道徳科の授業でどうするべきか、他教科でどのように関連されるべきかを具体的な教科の指導場面を通してお話しされました。また、改めて道徳科の目標についても4項目にわけ詳しく解説していただきました。

実際の授業場面の映像を提示し様々なご示唆をいただきました。明日からの道徳科の授業が楽しみになる、大変実りの多い講演となりました。

大会記録

